

Félicien
Rops

フェリシアン・ロツプス展

まなざしは、悪魔か神か…

Félicien Rops

(複製) 1882年、フェリシアン・ロツプス美術館

2002 9.20 FRI ⇒ 10.20 SUN

高松市美術館 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4
Takamatsu City Museum of Art Tel.087-823-1711

休館日=月曜日(ただし、9月23日(月・祝)・10月14日(月・祝)は開館、9月24日(火)・10月15日(火)は休館)
開館時間=火~金曜日:午前9時30分~午後7時 / 土・日曜日・祝日:午前9時30分~午後5時
【入室はいずれも閉館30分前まで】 初日は午前10時開展式

入場料=一般600円(480円) / 高大生400円(320円) / 小中生200円(160円)

※()内は前売りおよび団体20名様以上の料金
※65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料
※会期中の土曜日は小・中・高生入場無料

主催=高松市美術館 / 読売新聞大阪本社 / 西日本放送 / 美術館連絡協議会
企画協力=フェリシアン・ロツプス美術館、ナムユール 後援=ベルギー大使館 / 在大阪ベルギー総領事館 協賛=花王株式会社 協力=ANA



Félicien Rops

フェリシアン・ロップス(1833-1898)は、19世紀後半に活躍したベルギーを代表する画家・版画家のひとりです。

生地ナミュールで絵を学んだ後、ブリュッセル大学で哲学を学びつつ、本格的に芸術活動を開始しました。1856年23歳の時、莫大な遺産を引き継いで諷刺雑誌「アイレンスピーヘル」を発刊し、自ら版画を手がけます。その後1862年にパリへ出て、版画技術に磨きをかけて一方で想像力あふれる挿絵画家として活躍し、その特異な才能を開花させました。特に1866年にはボードレールの『漂着物』の扉絵を制作し、広く知られることになります。

ロップスをロップスたらしめたもの、それは当時のブルジョワ社会が偽善的モラルで覆い隠していた人間が生来もつエロス(欲望)をありのままに描いたことであり、その衝撃的な主題は新しい戦慄を人々の心に呼び醒ました。華やかな社会の暗部に光をあて、ロップス流の醒めたまなざしで、ときにはグロテスクときにはエロティックに、社会の底辺に生きる人々や爛熟した都市生活が浮き彫りにされます。一方でロップスは自然をこよなく愛し、故郷や外国を幾度も訪れては写実的な風景画を多く描きました。

都市と自然、豪奢と貧困、正義と悪、光と闇、こうした相反する要素は、どちらもロップスにとっては「現実」であり、彼の「目で見、神経で感じたまま」に作品化されました。

没後100年を経た今日、ナミュールにあるロップス美術館の全面的な協力を得て開催される本展は、日本で初めての本格的な回顧展となります。油彩、水彩、版画など130余点で構成される本展はロップス芸術の全貌に迫るものとなるでしょう。そして人間の本质に鋭く迫る現実主義者ロップスを再発見し、我々の心にも新たな震撼をもたらすにちがいありません。優美で繊細、かつ大胆な芸術表現を是非ご堪能ください。

ギャラリートーク

当館学芸員による展示作品の解説

9月21日(土)と10月5日(土)の午後2時より2階展示室にて

美術館ボランティア「civi(シヴィ)」とともに作品鑑賞

毎日曜日および祝日(9月22日(日)・23日(月・祝)・29日(日)・10月6日(日)・13日(日)・14日(月・祝)・20日(日))の午前11時〜午後2時〜の一日2回。2階展示室にて

アートで遊ぼう!

Vol.3 フロッタージュ 擦りだして美術館に触れてみよう!

当館学芸員がワークショップを開催いたします。10月26日(土)午前10時〜11時30分
対象:小学生3〜6年生・15名(事前申し込み制)

次回催し物のお知らせ

アンジェ美術館展

—巨匠たちの妻でる(雅な妻)

2002年11月1日(金)〜12月8日(日)

交通のご案内

JR四国—JR高松駅下車、南へ徒歩15分
コトデン—互町駅・片原町駅下車、徒歩10分
バス路線—紺屋町バス停下車、徒歩3分
駐車場—美術館地下に公営駐車場
(有料、乗用車144台収容)



1. 『ヴィーナスとキューピッド(鼻をかんでもらっているアモル)』1878-81年頃、ワロン・ブリュッセル地域フランス語共同体、文化・社会省(フェリシアン・ロップス美術館寄託品)
2. 『アルベール・バルトラン版刻』(娼婦政治家)1896年、ワロン・ブリュッセル地域フランス語共同体、文化・社会省(フェリシアン・ロップス美術館寄託品)
3. 『漂着物』1866年、フェリシアン・ロップス美術館
4. 『フォーリーの別れ[泣くより笑うほうがまだ]』1878-81年頃、ワロン・ブリュッセル地域フランス語共同体、文化・社会省(フェリシアン・ロップス美術館寄託品)
5. 『年ごろ』1875-85年頃、クレス氏
6. 『昼寝』1879年、フェリシアン・ロップス美術館

